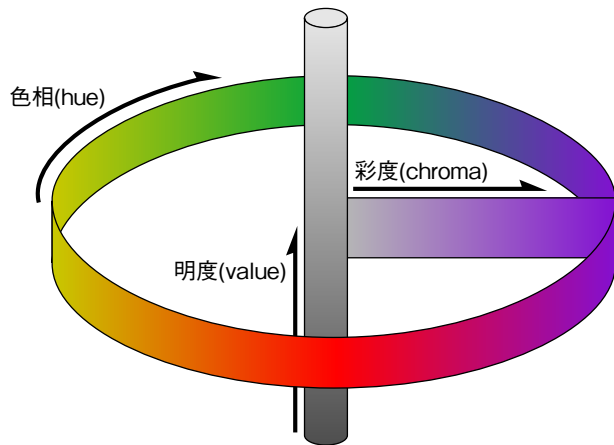


色の三属性

いろのさんぞくせい



色の三属性 (概念図)

概要

色の三属性とは、色の持つ三つの性質である、色相・明度・彩度をいいます。人の眼は物体が吸収・反射する光や、物体を透過する光を色として知覚しますが、その見え方には色相・明度・彩度の違いがあります。これらはそれぞれ関連しあっているため、ひとつの属性を扱っただけでは、特定の色をいいあらわすことはできません。色相とは、赤・黄・緑・青のように、色を特徴づける「色み」のことといいます。色みは、光の波長の違いによって変化します。色相を環状に配置し、色を体系化する方法として、色相環があります。色のあざやかさの度合いをあらわすのが彩度です。あざやかな、色みが強い色は彩度が高く、色みの弱いくすんだ色は彩度が低くなります。わずかでも彩度がある色は有彩色といい、白・灰・黒などは無彩色といいます。有彩色・無彩色は、それぞれに明るい色と暗い色があり、この色の明るさの度合いを明度といいます。明度は物体の表面の光の反射率に関係します。無彩色の中では、反射率の高い白は明るく（明度が高く）、黒は暗く（明度が低く）なります。また、色の三属性の相互関係は、色立体として三次元的にあらわすことができます。色相を環状に配置し、その中心に垂直に取った軸が明度を、中心軸から色相環までの距離が彩度をあらわします。

※掲載している図版は色彩の関係を示した概念図であり、各色彩を厳密に再現したものではありません。また、閲覧環境により色彩が異なって見える場合があります。